

森林部会の研究成果



千葉県農林総合研究センター
森林研究所 岩澤勝巳



森林部会の取り組み

放置竹林等の整備による
獣類被害軽減効果の解明

放置された竹林が拡大している



拡大の原因は？

- タケ類は地下茎が周囲に拡大する
- タケノコ・竹材利用の減少
- 森林における侵入竹の放置

竹林拡大の影響は？

- 造林木の生育阻害
- 生物多様性の低下
- 二酸化炭素吸収機能の低下
- ゴミ投棄や見通しが悪い^{ため防犯上も問題}
- イノシシなどの隠れ場所、餌場になっている？

調査の目的

- 林縁部の放置竹林について、イノシシ等害獣の隠れ家・餌場としての評価を行い、見通しの良い林縁管理の必要性を明らかにする
- ↓
- 放置竹林の整備によるイノシシ出没低減効果及び、効果の高い整備方法を明らかにする

調査 1（平成25～26年度）

放置竹林と人工林の比較

イノシシが出没している3地域のモウソウチク放置竹林と隣接した人工林に調査地（30m×30m）を設定



モウソウチク放置竹林



スギ人工林

調査1（平成25～26年度）

調査方法

センサーカメラによるイノシシの出没状況調査

$$\text{撮影頻度指数 (RAI)} = \frac{\text{撮影されたイノシシの頭数}}{\text{カメラ台数} \times \text{撮影日数}} \times 100$$



調査1（平成25～26年度）

調査方法

林地の掘り返し状況を指数で調査

掘り返し指数

0：なし、1：少ない、2：中程度、3：多い



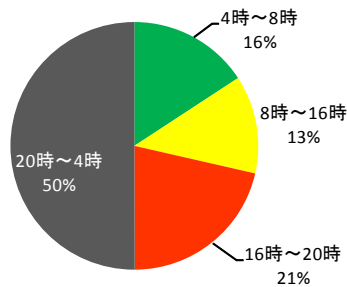
タケノコ食害



地下茎食害

調査1（平成25～26年度）

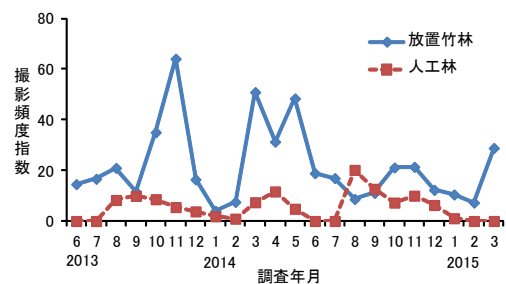
竹林に出没したイノシシの時間帯



注) 平成26年度の3か所の平均値

調査1（平成25～26年度）

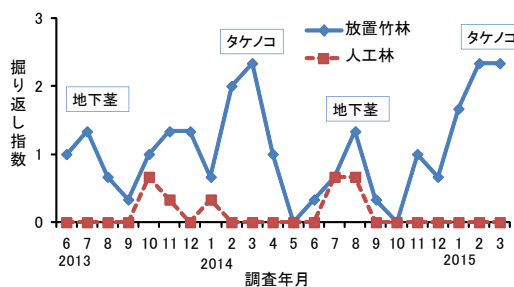
イノシシの撮影頻度指数の推移



注) 3か所の平均値

調査1（平成25～26年度）

イノシシによる掘り返し指数の推移



注) 3か所の平均値

調査1（平成25～26年度）

まとめ

- 放置竹林は人工林に比べ、イノシシの撮影頻度が高く、放置竹林に多く出没
- 林地の掘り返しは人工林より放置竹林で多く認められ、放置竹林がイノシシの重要な餌場に！
- 竹林では冬～春にタケノコ、夏に地下茎が食害



放置竹林の整備がイノシシ対策に有効

調査 2 (平成27年度)

放置竹林と整備竹林の比較

イノシシが出没している4地域のモソウチク放置竹林と整備竹林に調査地(30m×30m)を設定



放置竹林

整備竹林

調査 2 (平成27年度)

調査地の竹林の整備状況

調査地	整備方法	整備後のイノシシ対策
長柄町	伐竹、搬出	なし
大多喜町	伐竹、集積	なし
木更津市	伐竹、集積	伐竹材で竹防護柵
勝浦市	伐竹、集積	簡易電気柵



竹防護柵



簡易電気柵

調査 2 (平成27年度)

調査方法

- ・センサーカメラによるイノシシの出没状況調査

$$\text{撮影頻度指数 (RAI)} = \frac{\text{撮影されたイノシシの頭数}}{\text{カメラ台数} \times \text{撮影日数}} \times 100$$

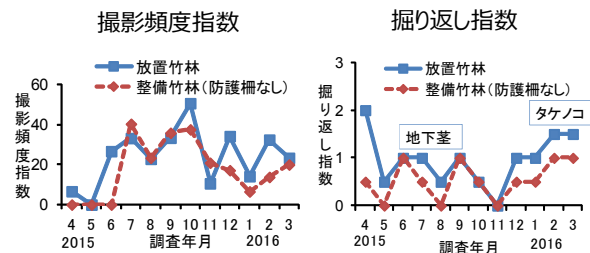
- ・林地の掘り返し状況を指数で調査

掘り返し指数

0 : なし、1 : 少ない、2 : 中程度、3 : 多い

調査 2 (平成27年度)

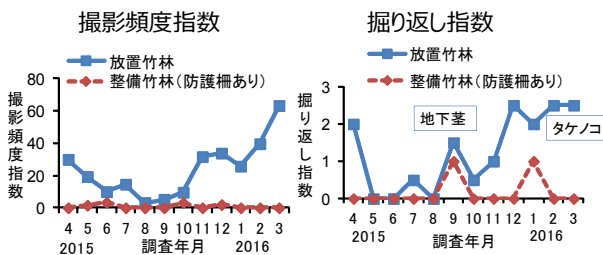
竹林整備によるイノシシ出沒抑制効果 (竹林整備のみ)



注) 長柄町と大多喜町の2調査地の平均値

調査 2 (平成27年度)

竹林整備によるイノシシ出沒抑制効果 (竹林整備+防護柵)



注) 勝浦市と木更津市の2調査地の平均値

調査 2 (平成27年度)

まとめ

- ・整備竹林は放置竹林に比べ、イノシシの出没、掘り返しが少ない傾向だったが、出没、掘り返しを大幅に抑制できない
- ・整備竹林後に竹防護柵又は簡易電気柵で囲んだ竹林は出没がほとんどなく、掘り返しも発生しない



竹林整備後に竹防護柵や簡易電気柵でイノシシの侵入防止を図る必要がある

ご清聴ありがとうございました

